

授業改善の工夫	目的を明確にした対話活動を位置付けている
---------	----------------------

中学校国語 第2学年 「表現のしかたを工夫して書こう」	
単元名	「ある日」の自分の物語を書く
単元のねらい	<p>(1) 物語の展開について理解した上で、本単元で想定している表現技法等を理解し使うことができる。</p> <p>※本単元で想定している表現技法等とは、情景描写、心情描写、人物・行動描写、擬音語、擬態語、押韻、比喩、倒置法、視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚に訴える表現の工夫のことである。</p> <p>【知識及び技能】(1)言葉の特徴や使い方に関する事項-第1学年-オ、第2学年-オ)</p> <p>(2) 読み手にどのように伝わるかを考えて言葉を選んだり表現技法等を用いたりして、気持ちや場面の様子を表現することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】B書くこと-第2学年-ウ考えの形成・記述)</p> <p>(3) 読み手からの助言を踏まえ、自分の言葉や表現のよい点や改善点を見出すことができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】B書くこと-第2学年-オ共有)</p> <p>(4) 読み手にどのように伝わるかを考えて言葉を選んだり表現技法等を用いたりして、気持ちや場面の様子を表現しようとする。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】)</p>
単元の流れ	<p>『ある日』の自分の物語を書く」(総時数8時間)</p> <p>(1) 二つの物語に共通して見られる表現の工夫(表現技法等)は何だろう。</p> <p>(2) 二つの物語に共通して見られる構成上の特徴は何だろう。</p> <p>(3) 読み手を惹き付ける物語のあらすじを書こう。</p> <p>(4) どのような表現の工夫(表現技法等)を使えば、自分の伝えたい気持ちや場面の様子を表現できるかな?</p> <p>(5) 物語の下書きを書こう。</p> <p>(6) 読み手にどのように伝わったかを聞いて、言葉や表現を改善しよう。</p> <p>(7) 物語の清書と書評を書こう。(本単元では、自身の物語についての書評を自身で書くことにした。)</p> <p>(8) 言葉の達人になるために大切なことは何だろう。</p>

○本時のねらい(3時間目)

<p>創作する物語の内容について、ペアで質問し答える活動を通し、きっかけによって主人公の気持ちや状況が変わる物語のあらすじを書くことができる。</p>

○本時の学習過程（3時間目）

段階	学習内容・活動	時間 (分)	○指導上の留意点 評価規準
導入	○前時の学習内容の確認をする。(きっかけを通して、気持ちAが気持ちBに変わるという展開にすることで、読み手にどのような効果を与えるか。)	3	○前時での生徒の発言を取り上げ、きっかけを通して、気持ちAが気持ちBに変わる展開の読み手に与える効果を想起させる。
	○本時のめあてを把握する。	2	
展開	○何をどのような展開で書くかを自分一人で考え、ノートにメモする。	5	○机間指導の中で、書き進めることができない生徒に、昨年度の2年生が書いた物語を見せる。
	○何をどのような展開で書くかを、ペアで質問し答える。以下の質問項目については最低限、質問することとする。ペアを替えて、2回行うものとする。	15	○ペアの物語が、読み手を惹き付ける内容となっていくように、聞き手が質問するという、本時での対話の目的をはっきりと生徒に伝えてから、ペアで質問し答える活動を行う。 【手だて1】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈質問項目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何のことについて書くの？ ・どうしてそのことを書こうと思ったの？ ・主人公はどんな人？ ・主人公以外、どんな人が登場するの？ ・主人公は、どんな気持ちがどんな気持ちに変わるの？ ・主人公の気持ちが変わるきっかけとしては、何が起こるの？ </div>	15	○作者の物語が、読み手を惹き付ける内容となっていくように質問項目以外のことを質問したり、作者の回答に対する追質問をしたりするよう声掛けをする。
	○ワークシートに、きっかけによって主人公の気持ちや状況が変わる物語のあらすじを書く。	15	○机間指導で、書き進めることのできない生徒に、昨年度の2年生が書いた物語のあらすじを見せる。
まとめ	○読み手を惹き付けるための展開の工夫について考えたことをノートに書く。	5	○生徒が記述している最中に、生徒の記述内容を紹介する。